

日頃から津波に備えましょう

①地震と津波

2004年に起こったスマトラ島沖の津波では史上最大規模の人的被害が発生しました。津波の多くは海域で地震が発生して海底地形が急変したとき発生します。このほか火山活動に伴って噴出物が急に海に流れ込んでも海底地形が変わるので津波が発生します。湖でも同様に湖底の地形が急に変わって津波が起こることがあります。

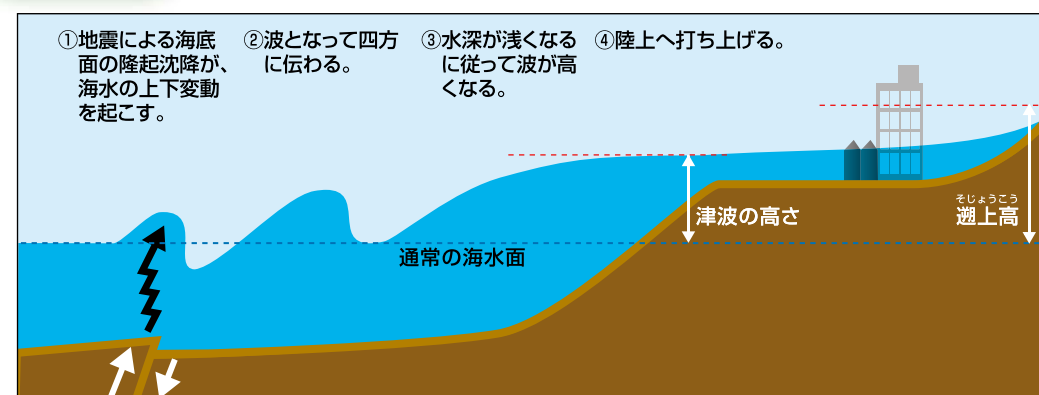
②内陸型(直下型)地震と海溝型地震

日本列島周辺で発生する地震はその発生源の位置によって2つのタイプに分けられています。1つは阪神淡路地震や中越地震のように陸地の下の浅いところを発生源とする地震です。過去の発生履歴が地形に現れていて活断層と知られている場合もあります。内陸型地震では津波は発生しません。海底の地形が変わらないからです。もう1つはプレートの沈み込みに伴ってプレートの境界部で発生する海溝型地震で、震源が浅いと津波が発生する事が多いのです。伊達市とその周辺30km以内には活断層は知られていません。従って伊達市近傍で内陸地震が発生する可能性は比較的小さいと思われます。

また、日本海溝からは400km近く離れているので、海溝型地震に伴う津波は発生から第1波の到達まで30分以上かかり、その間に緊急避難することは可能です。

※平成17年2月広報だて 「日頃から災害に備えましょう ①～津波～」より

津波とは



- 海底で起きた地震が原因で海水が陸地に押し寄せる現象を津波といいます。
- 火山の噴火などによっても海底や湖底の地形が急変して津波が発生することがあります。

①遡上高とは

気象庁では津波予報(津波警報・津波注意報)で「津波の高さ」を発表していますが、その高さは「海岸での津波の高さ」を言います。

実際に津波が陸上に進入し這い上がる高さを「遡上高(そじょうこう)」と言います。

津波はすばやく、そして繰り返し襲ってくる

津波は沖合いの海域では新幹線並みの速度で来襲し、沿岸近くでは自動車並みの速度で迫ってきます。

津波は繰り返し襲ってきます。津波警報や注意報が発表されたら解除されるまで、海岸には近づいてはいけません。



津波が来る前に いそいで避難!!!

沿岸部にいて「強い大きな揺れ」や「ゆっくりと長く続く揺れ」を感じたら、すばやく高いところへ避難しましょう。震源地が遠くて揺れを感じなくても「津波警報」が発表されたときは、直ちに海浜から離れ、急いで高い場所へ避難しましょう。近くに高いところが無ければ頑丈な高い建物の高い階層へ避難しましょう。



津波の破壊力



津波は沿岸での津波の高さが1mでも、その数倍の高さまで陸上をかけたのぼる場合があります。そして、家や車を簡単にさらっていくすさまじい破壊力を持っています。木造家屋では、浸水高2m程度でほぼ全壊、1m程度で半壊と言われている。

津波の力は地上に押し寄せる波だけではなく、海へと引き返す波も強力で、人や家などすべてをのみ込みます。

川も危険!!!



平成15年の十勝沖地震では、津波が釧路市の新釧路川河口から7km、十勝川でも11km上流に到達したことがわかっております。場合によっては津波が堤防を越え、浸水等の被害が発生する可能性もあります。